牛・豚の品種

牛の主な品種

黒毛和牛
【Japanese Black】

■体の特徴

（体高・体重）繁殖用雌牛の標準
毛色は黒単色で褐色を帯びてる。
体高130cm、体重520kg程度。

■発祥地・肥育エリアなど

明治の時代から品種改良が行われ、1918年より登録開始、1944年に品種が固定したと結論、全国の肥育農家で170万頭以上、飼われており和牛の約95%以上を占める。

■特徴

脂肪交雑、肉の色沢、肉のきめ及び締まりなどの肉質形質に優れた遺伝的特性をもっている。

褐毛和種
【Japanese Brown】

■体の特徴

（体高・体重）繁殖用雌牛の標準
毛色黄褐色から赤褐色をしている。
体高130cm、体重540kg程度。

■発祥地・肥育エリアなど

熊本県で放牧に適する牛として改良した「肥後牛」と、高知県で韓国牛から改良された「高知系」のものがある。全国で約3万頭（熊本県で1万1千頭、高知県で約2千頭）が飼われている。

■特徴

性質は温順で、強健の上、耐熱性に優れ、粗資料利用性も高い。
黒毛和種よりは脂肪交雑の入り方は少ないが、草を与えた健康な赤身肉として評判は高い。

無角和種
【Japanese Polled】

体の特徴

（体高・体重）繁殖用雌牛の標準
毛色は黒単色（黒毛和種よりも黒味が強い）。体高128cm、体重580kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

山口県阿武（あぶ）郡で在来和牛をアバディーン・アンガス種によって改良して生まれた品種で、中国地方で約200頭が飼われているのみ。

特徴

増体速度が速く、粗飼料の利用効率が高い。
肉質の面では脂肪交雑やきめなどが黒毛和種に比較すると劣っている。

日本短角種
【Japanese Shorthorn】

体の特徴

（体高・体重）繁殖用雌牛の標準
毛色は濃赤褐色。体高135cm、体重600kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

南部牛とアメリカから輸入されたショートホーン種、デイリー・ショートホーン種を交配して改良されたもの。
東北地方の北部原産で今は岩手県を中心に約8千頭が飼われている。

特徴

粗飼料の利用効率が高く、北日本の気候・風土に適合している。
肉質の面では脂肪交雑やきめなどが黒毛和種に比較すると劣っているが、東北地方の放牧形式による肉牛生産に向くため、生産地の愛好は強い。

アバディーン・アンガス種
【Aberdeen Angus】

体の特徴

（体高・体重）繁殖用雌牛の標準
毛色は黒単色。体高120cm、体重550kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

英国スコットランドで作られた品種で、ヨーロッパや豪州で多飼くわれている。

特徴

粗飼料の利用効率が良く、乳量も多いので放牧飼養に適している。
肉質も外国種の中で優れている。

ヘレフォード種
【Hereford】

体の特徴

（体高・体重）繁殖用雌牛の標準
毛色は赤褐色で顔面・胸・腹にかけては白色。体高130cm、体重600kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

英国イングランド地方が原産地。アメリカや豪州でも多く飼われている。

特徴

非常に強健で、暑さ、寒さ、乾燥などの過酷な自然条件によく適応する。
肉質はアバディーン・アンガス種よりやや劣る。

シャロレー種
【Charolais】

体の特徴

（体高・体重）繁殖用雌牛の標準
毛色はクリーム色単色で、額に縮れ毛がある。体高140cm、体重700kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

フランスシャロレー地方が原産地。フランス、イギリスで多く飼われている。

特徴

環境適応力も高い。
肉質は脂肪が少なく赤肉生産用とされる。

ホルスタイン種
【Holstein】

体の特徴

（体高・体重）繁殖用雌牛の標準
毛色は白黒斑ないし黒白斑。体高140cm、体重650kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

原産国はオランダの北オランダ州および、フリースランド州、ドイツのホルスタイン地方。
現在日本で飼養されている乳牛の98%、肉用牛の約40%をホルスタイン種が占めている。

特徴

泌乳量が多く、乳脂率が低い。性質は温順で環境適応性が高い。
肉質を改善して肥育するF1肥育も盛んになってきている。